

宮田村都市計画マスタープラン

宮 田 村

序章 都市計画マスタープランとは

第1節 都市計画マスタープラン策定の背景と目的	6
第2節 計画目標年度	7
第3節 計画対象区域	7
第4節 策定フロー	8
第5節 都市計画マスタープランの構成と内容	8

第1章 宮田村の現況と課題

第1節 宮田村の現況	
1. 広域的な宮田村の位置づけ	10
2. 自然的条件	11
3. 歴史的条件	13
4. 人口動向	14
5. 産業構造と動向	17
6. 土地利用の現況と動向	20
7. 建物の現況と動向	23
8. 交通体系	25
9. 公共施設の状況	28
10. 都市基盤整備の状況	29
11. 上位関連計画のまとめ	33
第2節 住民意向の把握	
1. アンケート調査の整理	35
2. まちなみウォッチング	36
3. まちづくり研究会	37
4. 小学生対象のアンケート調査	38
5. 地区別懇談会	38
第3節 都市計画の課題	39

第2章 全体構想

第1節 まちづくりの理念及び目標	42
第2節 むらづくりの基本目標	42
第3節 重点目標	43
第4節 将来フレーム	44
第5節 将来都市骨格構造	
1. 骨格構造の概念	45
2. 将来都市骨格構造	46

第3章 具体的整備構想

第1節 重点目標と具体的整備方針との関係	52
第2節 具体的整備構想	
1. 土地利用	54
2. 市街地整備	62
3. 都市基盤整備	66
4. 都市景観	72

第4章 地域別構想

第1節 地域区分の考え方	76
第2節 地域別構想の構成	77
第3節 地域別構想	
1. 西部地域	78
2. 町部地域	86

参考資料

用語解説	104
------	-----

序章 都市計画マスタープランとは

第1節 都市計画マスタープランの策定の背景と目的

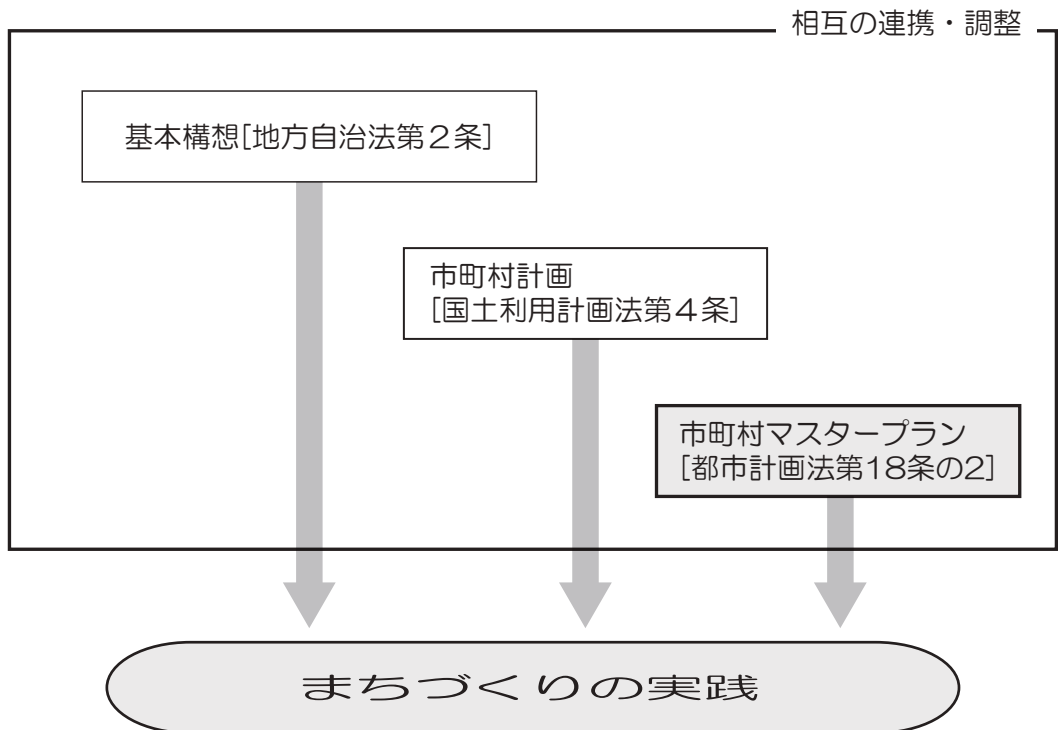
都市計画とは「健康で文化的な都市生活及び機能的な都市活動の確保」を基本理念としており、住民生活や産業、その他の諸活動が快適で効率よく、かつ安全に営まれるように都市の発展を計画的に誘導し、秩序ある市街地を形成していくことを目指すものです。

21世紀を迎えた今、急速な産業構造や社会構造の変化、価値観の多様化等に伴い、住民が誇りと愛着を持つことのできる個性を備えた都市づくりが求められています。

そのためには、住民の皆さんの理解と参加のもとに、望ましい都市の将来像を明確にし、各施策を総合的に、体系的に展開していくという、新しい視点に立った都市づくりの計画が必要となってきました。

宮田村では、こうした背景を踏まえて、昨年度に「宮田村第4次総合計画」を策定し、今年度においては「国土利用計画宮田村計画」を策定中です。

「宮田村都市計画マスタープラン」は、上位計画となる「宮田村第4次総合計画」及び「国土利用計画宮田村計画」を基本に、都市計画の基本的方向を明らかにすると共に、地域毎のまちづくりの方針を定めること等、都市計画の総合的な指針となるものです。



図序-1 都市計画マスタープランの法体系図

第2節 計画目標年度

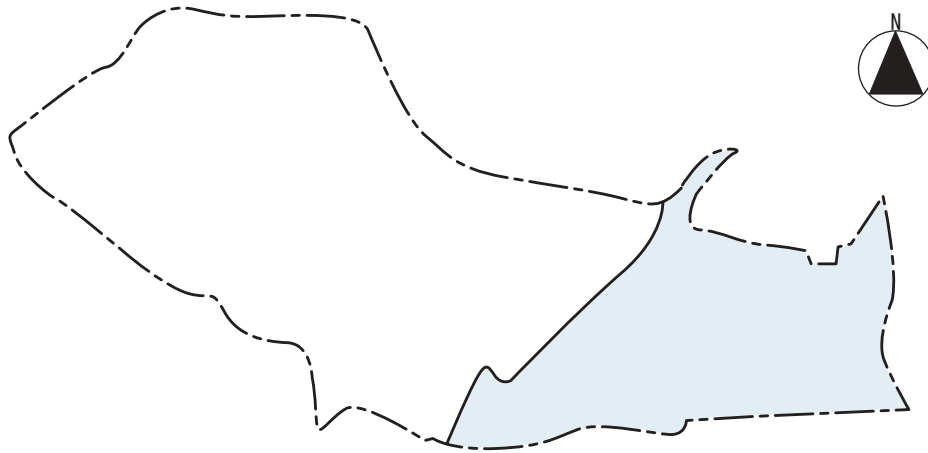
宮田村都市計画マスタープランは、概ね20年の計画期間を見込み、まちづくりの長期的な方向について示します。

平成14年度を初年度とし、20年後の平成33年度(2021年)を目標年度とします。

ただし、経済や社会の変化及び都市計画の法的な更新等に伴い、定期的な計画の検討を行い、整合を図ります。

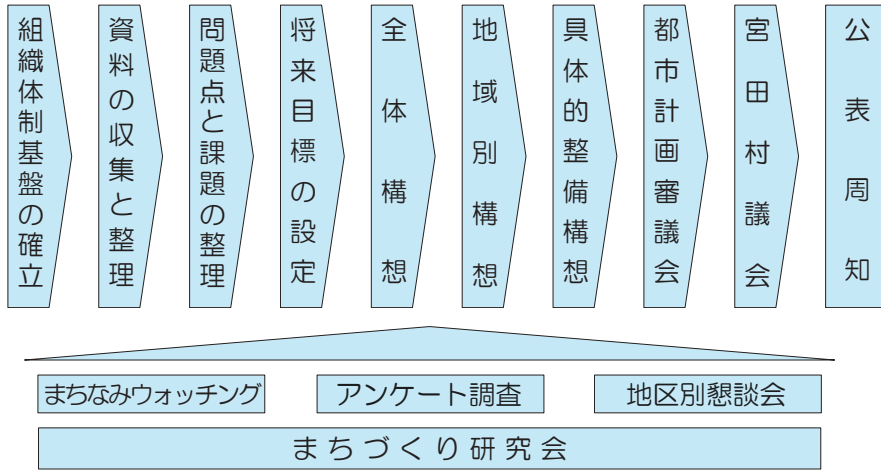
第3節 計画対象区域

宮田村都市計画マスタープランの計画対象区域は、都市計画区域(面積15.42 km²)とします。ただし、行政区域における自然的要素を十分に考慮した計画とします。

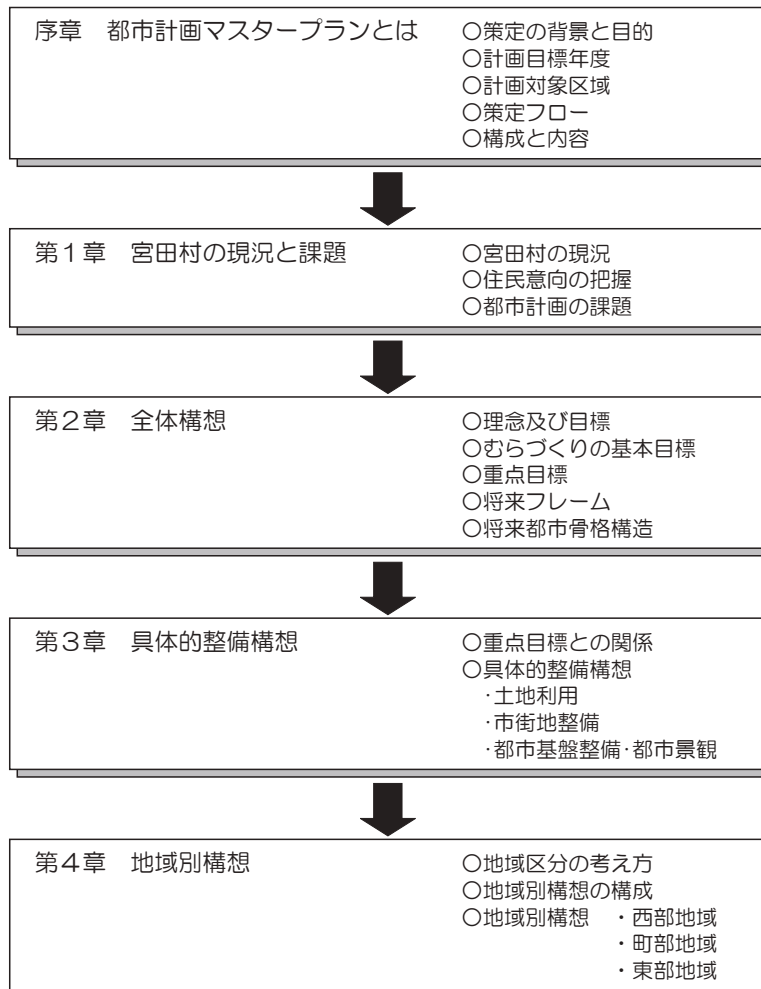


図序-2 計画対象区域

第4節 策定フロー



第5節 都市計画マスタープランの構成と内容



第1節 宮田村の現況

1. 広域的な宮田村の位置づけ

諏訪湖に源を発する天竜川は、伊那谷の基幹河川となって南下を続け、およそ30数kmの地点その右岸、太田切川扇状地の上に集落を占めているのが宮田村です。

長野県上伊那郡のほぼ中央部に位置し、東西11km、南北3.8km、面積は54.52km²を有し、天竜川及び太田切川を境に駒ヶ根市、北は伊那市、西は中央アルプスの分水嶺を境界として木曾郡上松町、同郡木曾福島町、同郡日義村に接しています。

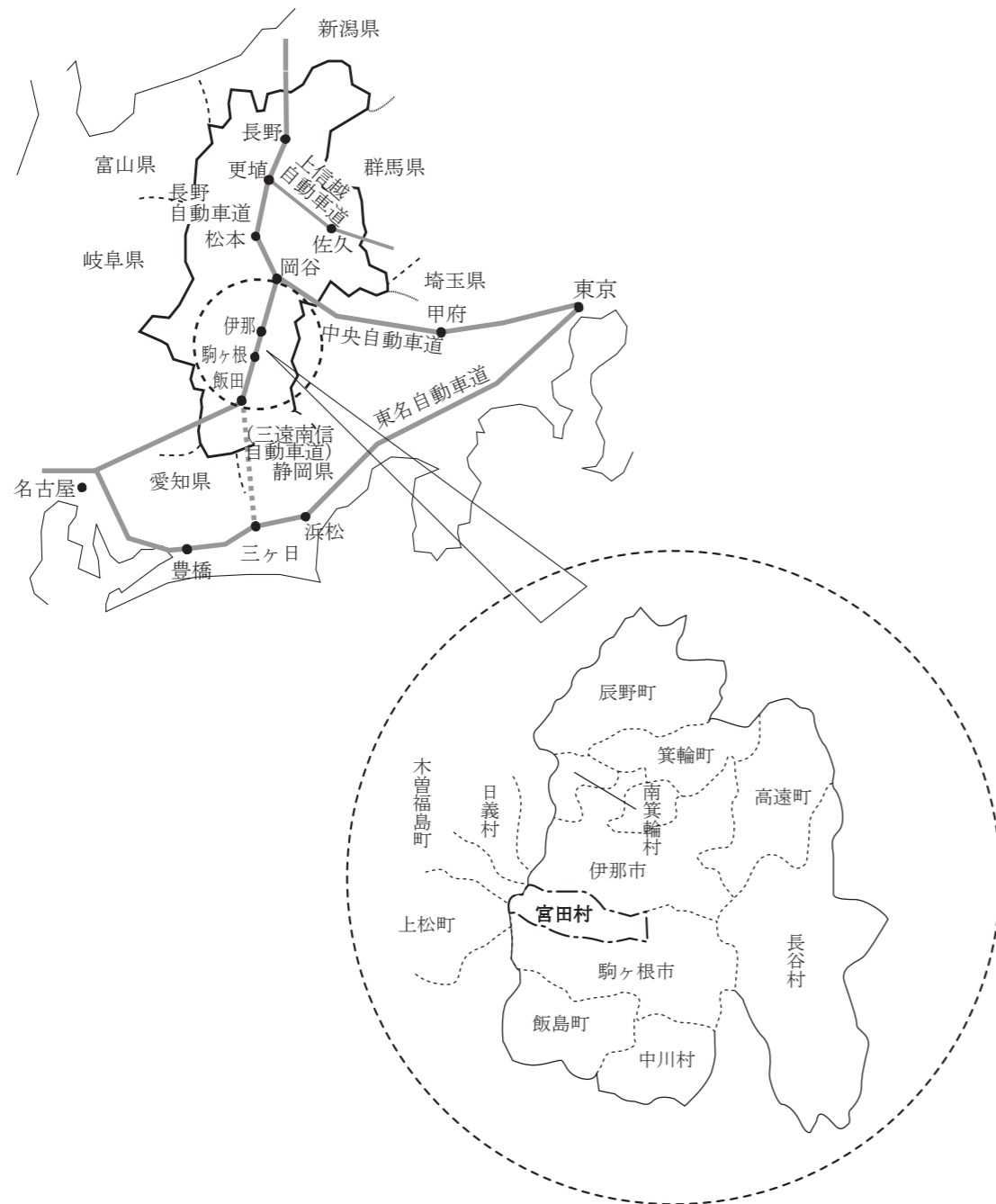


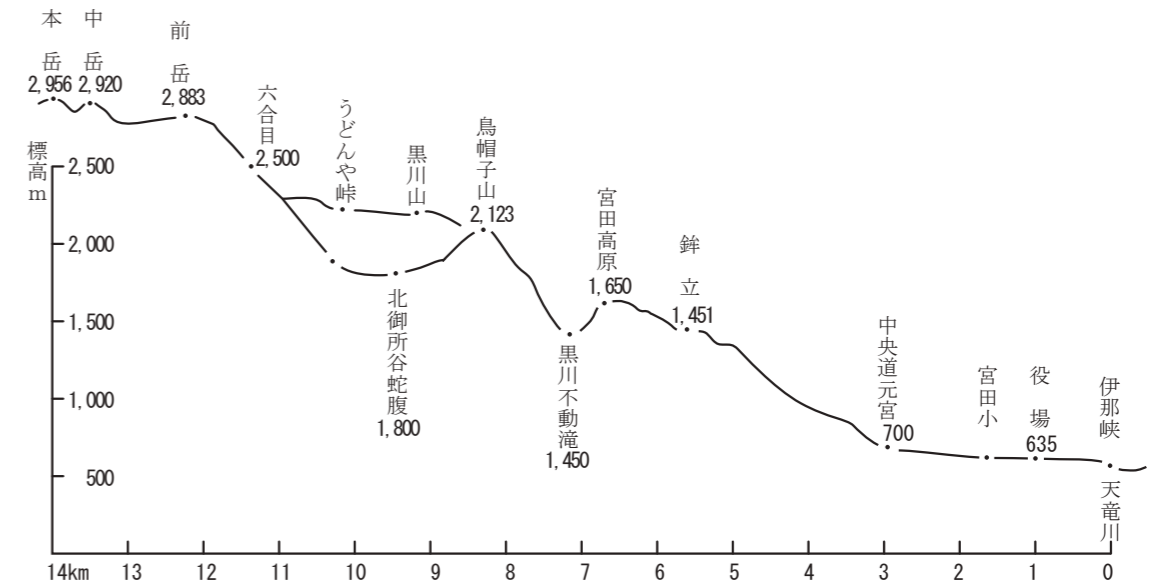
図1-1 宮田村の位置

2. 自然的条件

(1) 地形

地形は、西方の山地部から東南に向かって天竜川に傾斜した形を成し、平地は山麓扇状地、段丘、低地から成り、標高は580mから800mの区域内に村落を形成しています。南北幅は国道153号沿いに測ると2.8km、中央自動車道沿いでも3.9kmと大変狭い地形といえます。

また、集落の中心を南北に国道153号、JR飯田線が伴走し、西の山麓には中央自動車道西宮線及び伊那中部広域農道が走っており、伊那谷交通の要所を占めています。



伊那峡-本岳間を一直線にした垂直断面
標高目盛：水平目盛=2:1

図1-2 東西断面

(2) 気象

気象状況は内陸性気候を示しており、過去10年間における平均気温は約11℃で最高気温は35.9℃、最低気温は-17.2℃と寒暖の差が大きいのが特徴です。

また、日較差も大きく、夏でも朝夕は比較的涼しく過ごしやすい地域といえます。

表1-1 気象推移

年	気 温 (°C)			降水量(mm)		日最大 降雪量 (cm)	最大 風速 m/S	天 気 日 数 (日)				
	平 均	最 高	最 低	総 量	日最大 降水量			快晴	晴	曇	雨	雪
H3	11.2	31.8	-10.9	2,614	147	16.0	11	70	152	71	44	11
H4	10.8	33.6	-10.6	1,692	95	17.0	9	78	146	74	38	7
H5	12.2	29.8	-9.4	1,728	104	4.0	14	79	133	55	55	3
H6	11.4	35.9	-13.8	861	56	25.0	15	68	177	48	25	10
H7	10.3	33.5	-13.3	1,295	67	14.0	14	81	157	64	35	8
H8	10.2	31.7	-17.2	1,488	97	37.0	14	107	115	95	44	5
H9	10.8	31.5	-14.7	1,331	69	28.0	14	130	94	94	42	5
H10	11.7	32.4	-14.2	1,781	79	27.0	17	84	119	92	59	11
H11	11.2	31.2	-15.5	1,492.5	119.5	16.0	17	103	128	101	28	5
H12	11.0	32.6	-12.4	1,446.5	92	26.5	14	127	92	118	23	6

表1-2 気象概要(平成12年)

月	気 温 (°C)			降水量(mm)		日最大 降雪量 (cm)	最大 風速 m/S	天 気 日 数 (日)				
	平 均	最 高	最 低	総 量	日最大 降水量			快晴	晴	曇	雨	雪
1	0.6	12.2	-11.4	13.0	7	3.0	9	13	4	11	2	1
2	-1.7	8.6	-10.6	44.0	16	26.5	10	12	6	9	0	2
3	2.3	14.2	-12.4	141.0	41	18.0	11	11	9	8	0	3
4	8.8	19.2	-3.9	60.5	21.5		11	12	4	11	3	0
5	15.7	27.7	3.6	219.0	84.5		11	8	12	9	2	0
6	19.2	28.7	9.5	451.5	119.5		9	5	10	10	5	0
7	22.4	32.3	13.5	135.5	48		9	5	15	10	1	0
8	23.5	32.6	15.7	99.5	73		8	11	12	8	0	0
9	19.0	28.7	5.7	145.0	70.5		8	12	6	8	4	0
10	13.9	25.2	2.1	70.5	28		8	7	6	16	2	0
11	7.9	24.3	-5.3	112.5	42.5		10	13	4	9	4	0
12	1.4	12.0	-9.4	0.5	0.5	0.1	12	18	4	9	0	0

資料：都市計画基礎調査(平成13年度)

3. 歴史的条件

江戸時代の宮田村は、町割・北割・南割の3ヶ村に分かれ、幕末には新田と大田切が分村して5ヶ村となりましたが明治6年に合併して宮田村となり、明治8年に隣接する中越村と合併、現在の宮田村が誕生しました。昭和29年に町制を施行して宮田町、同年には隣接の赤穂町、中沢村、伊那村と合併して駒ヶ根市宮田となりましたが、昭和31年分市して再び宮田村となり現在に至っています。

4. 人口動向

(1) 人口

国勢調査による本村の人口は昭和34年頃までは下降線をたどっていましたが、昭和35年以降は、順調な上昇線を描いており、平成12年は8,697人でした。

住民基本台帳による平成13年4月1日現在の人口は9,063人であり、宮田村第3次総合計画における平成12年度目標人口の9,000人を達成しました。

平成12年と平成2年の国勢調査による地区別人口を見ると、南割、中越、北割新田、町三区、大田切、大久保地区においては増加傾向が見られます。しかし、地区の大半が用途地域である町二区、つつじが丘、大原は減少傾向が顕著です。

また、年齢5歳階級別人口を見ると、年少人口の減少と老年人口の増加により、少子高齢の進行がうかがえます。

表1-3 人口・世帯数推移

	S30	S35	S40	S45	S50	S55	S60	H2	H7	H12
人口	6,236	6,142	6,307	6,767	7,169	7,582	7,898	7,894	8,103	8,692
世帯数	1,296	1,320	1,421	1,629	1,741	1,918	2,066	2,153	2,383	2,641
1世帯当人口	4.8	4.7	4.4	4.2	4.1	4.0	3.8	3.7	3.4	3.3
増加率		-1.5%	2.6%	6.8%	5.6%	5.4%	4.0%	-0.1%	2.6%	6.8%

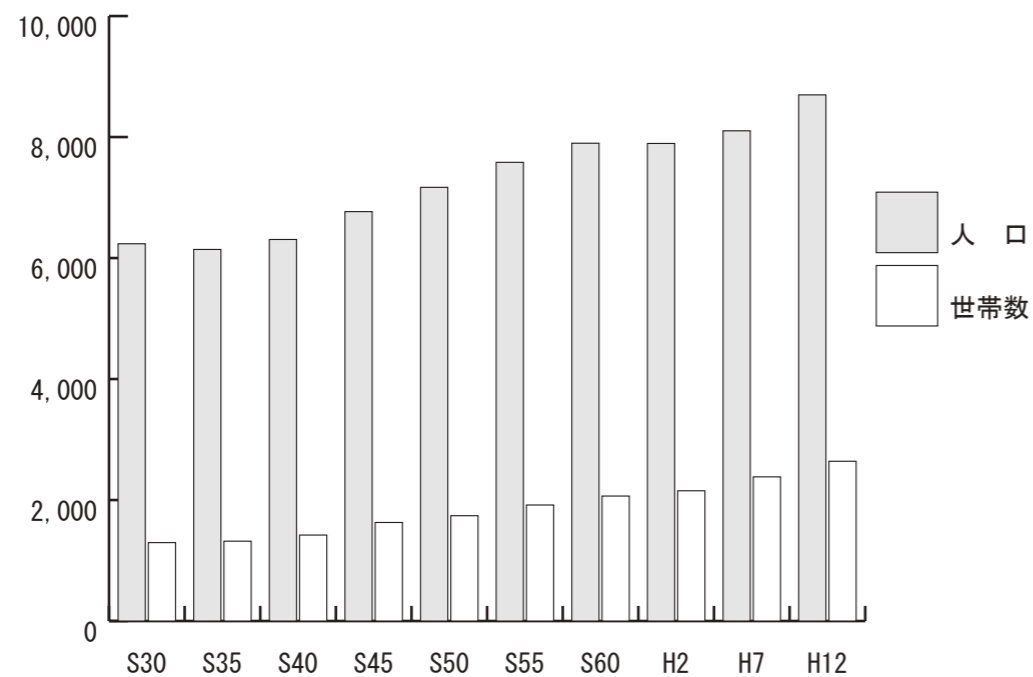


図1-3 人口・世帯数推移

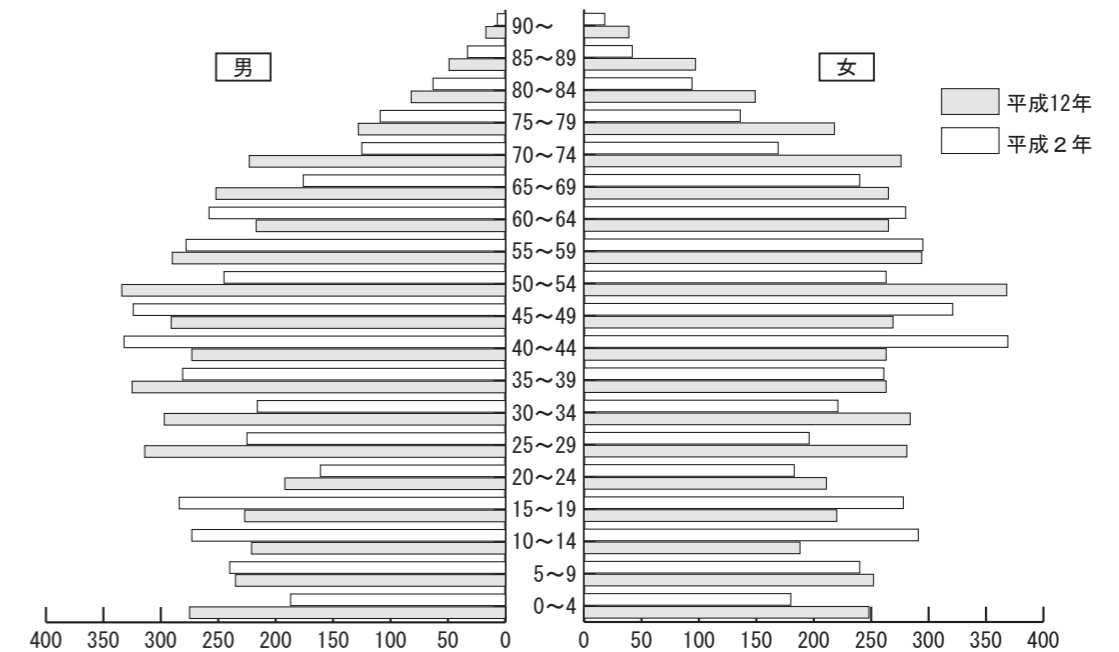


図1-4 5歳階級別人口

表1-3 地区別人口推移

	平成2年		平成7年		平成12年	
	人	人	※増減率	人	※増減率	
① 町一區	933	860	-7.8%	931	-0.2%	
② 町二區	883	826	-6.5%	636	-28.0%	
③ 町三区	1,560	1,535	-1.6%	1,857	19.0%	
④ 北割	534	715	33.9%	702	31.5%	
⑤ 南割	760	865	13.8%	1,044	37.4%	
⑥ 新田	554	588	6.1%	723	30.5%	
⑦ 大田切	689	743	7.8%	800	16.1%	
⑧ 大久保	615	609	-1.0%	672	9.3%	
⑨ 中越	281	277	-1.4%	386	37.4%	
⑩ つつじが丘	348	269	-22.7%	295	-15.2%	
⑪ 大原	737	816	10.7%	646	-12.3%	
合計	7,894	8,103	2.6%	8,692	10.1%	

注) 増減率は平成2年比

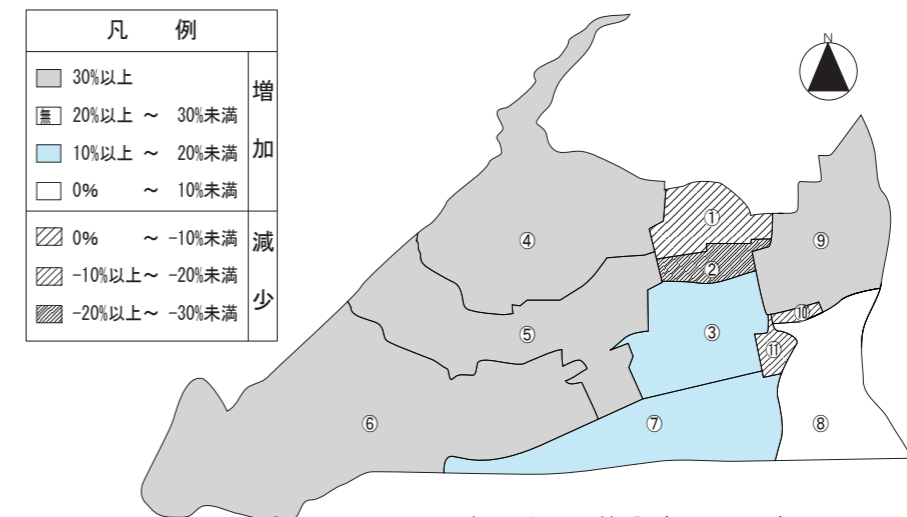


図1-5 地区別人口増減 (H12:H2)

(2) 流出流入人口

就業者の通勤流動状況は、流入人口と流出人口を比較すると流入人口が若干多いことがわかります。

平成7年国勢調査によると、主な流入先は 駒ヶ根市1,008人、伊那市696人、飯島町131人の順に多く、近隣市町からの流入が多く見られます。

一方、流出先は 駒ヶ根市927人、伊那市644人、飯島町88人の順に多く、大手企業の立地する市町への流出が目立っています。

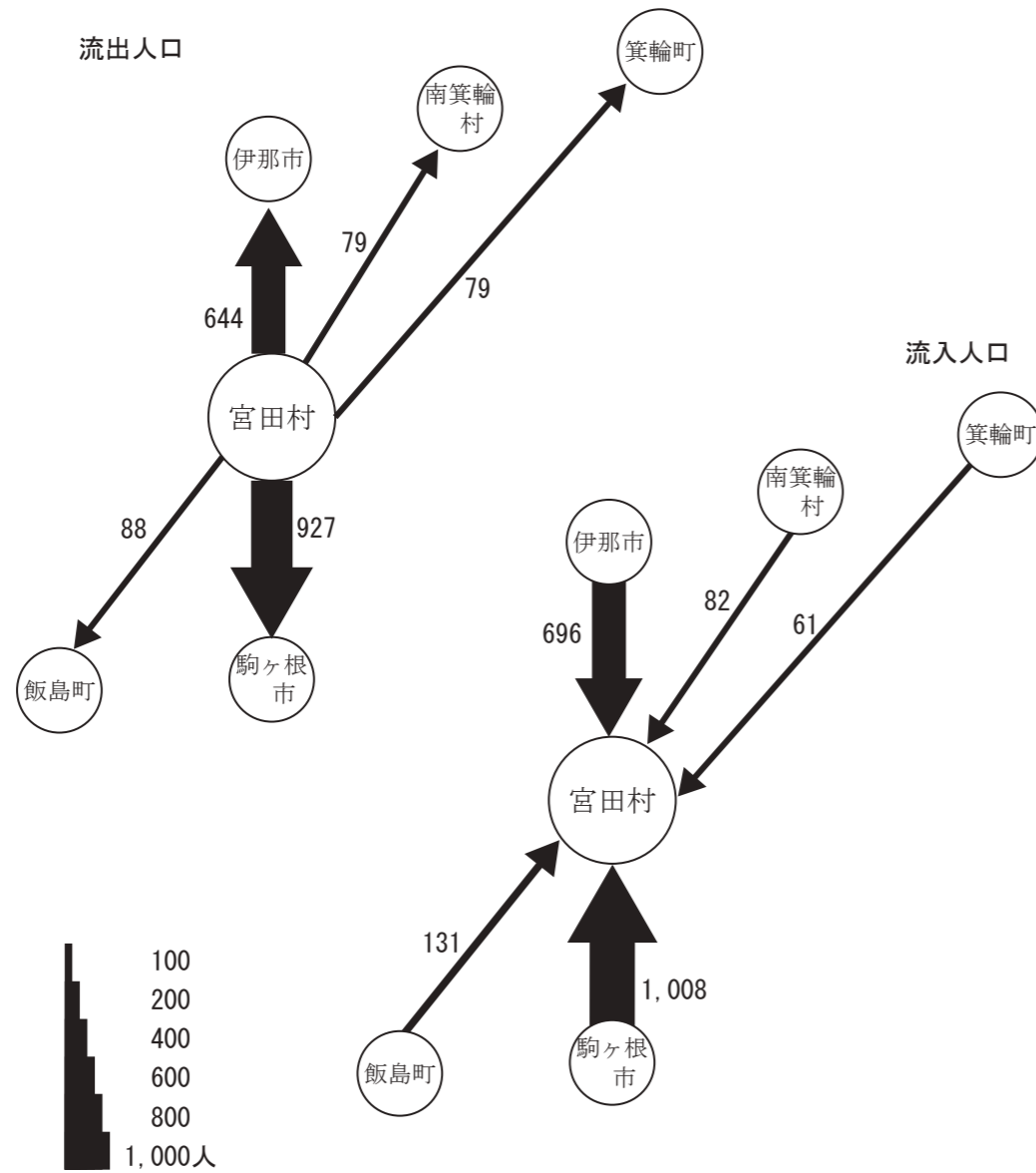


図1-6 流出流入人口

5. 産業構造と動向

(1) 産業別人口

本村は、明治初期は世帯の大部分が農業を営んでおり、産業別就業人口の推移を見ると昭和22年では第一次産業人口が62.5%、第二次産業人口が23.4%、第三次産業人口が14.1%でしたが、平成12年には第二次産業人口が49.1%、第三次産業人口が42.7%に増加し、第一次産業人口は8.2%に減少するという大きな変化を見せています。

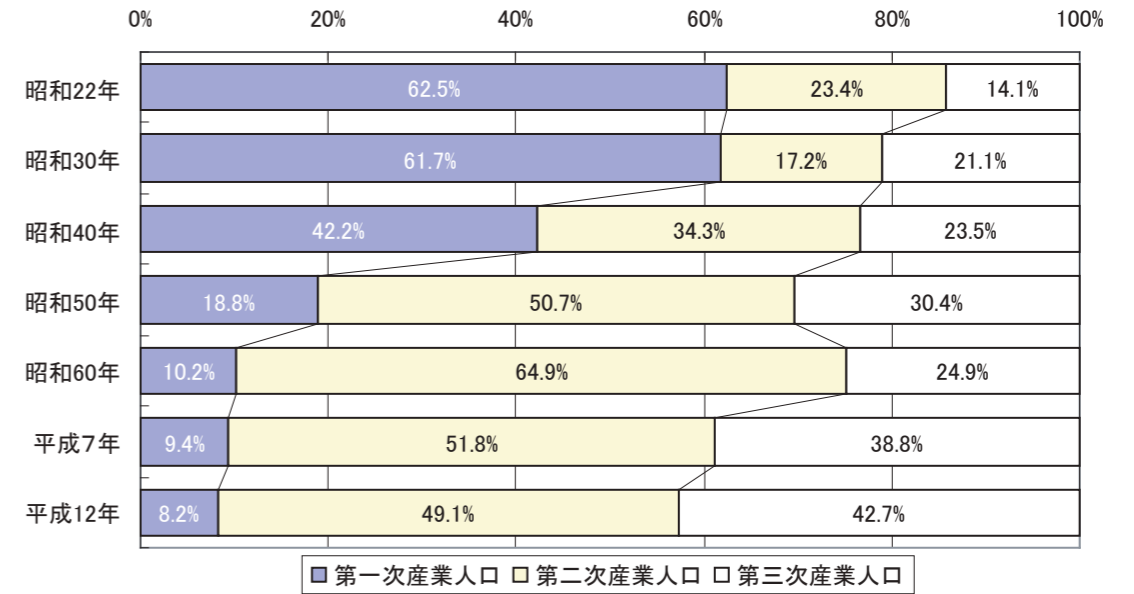


図1-7 産業別人口推移

表1-5 産業大分類別人口推移

単位：人

	昭和5年	昭和0年	平成2年	平成7年	平成12年
総 数	4,044	4,275	4,329	4,682	4,782
第一次産業	477	434	397	440	393
農 業	436	409	364	422	381
林業・狩猟業	41	20	31	16	9
漁業水産養殖業		5	2	2	3
第二次産業	2,242	2,776	2,402	2,425	2,349
鉱 業		8		4	2
建 設 業	379	287	333	403	404
製 造 業	1,863	2,481	2,069	2,018	1,943
第三次産業	1,323	1,064	1,523	1,814	2,040
卸売・小売業	511	494	593	663	679
金融・保険業	48	31	61	62	62
不動産業	4	2	11	6	13
運輸・通信業	142	45	124	155	145
電気・ガス・水道業	22	6	14	30	29
サービス業	498	405	607	789	999
公 務	98	81	113	109	113
分類不能	2	1	7	3	

資料：国勢調査

(2) 産業

① 工業

製糸業が栄えていた本村は、疎開した工場の定着等により、金属加工業、木工業等が基幹産業として発達してきました。昭和40年代には松の原工業団地を、昭和50年代にはつつじが丘東工業団地、後に南平工業団地等の造成が進められ、上伊那の工業の中核地区として発展してきました。

昭和60年以降の工業出荷額の推移を見ると、昭和62年と平成4年から平成6年にかけて一時減少しましたが、ほぼ順調な伸びを示しています。

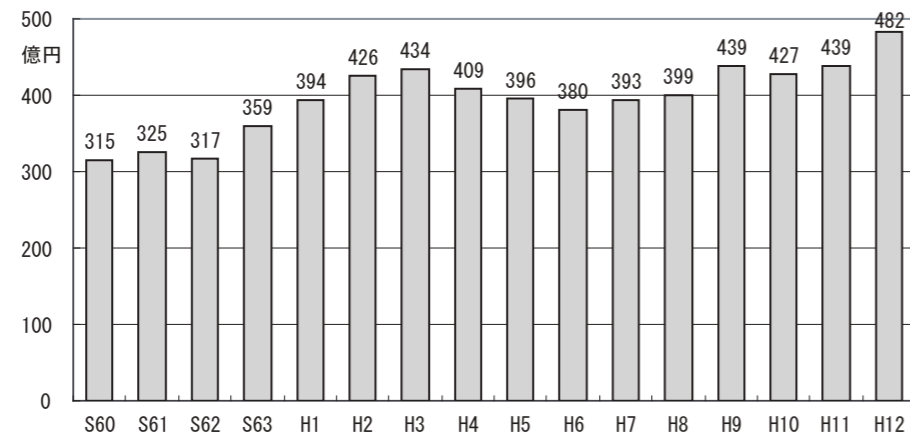


図1-8 工業出荷額推移 資料：工業統計調査 (平成12年を100とした国内卸売物価指数(日本銀行調査統計局)にて補正)

② 商業

本村は、伊那街道の宿場町であったこともあり、荷問屋を中心とした商業が栄えていました。近年は、村内及び近隣市町村を商圈とした商業が発展しています。

年間商品販売額を見ると、平成11年は134億円であり、昭和63年から平成11年までの約10年間で約20億円以上の増加が見られます。昭和57年から見られる大幅な増加は、昭和54年頃から進出したスーパーマーケット等の影響と思われる。

商圈構造を見ると昭和60年度では伊那市の一次商圈、駒ヶ根市の二次商圈でしたが、平成12年度には駒ヶ根市の一次商圈となっています。これは、駒ヶ根市への大規模小売店等の相次ぐ進出によるものと思われる。

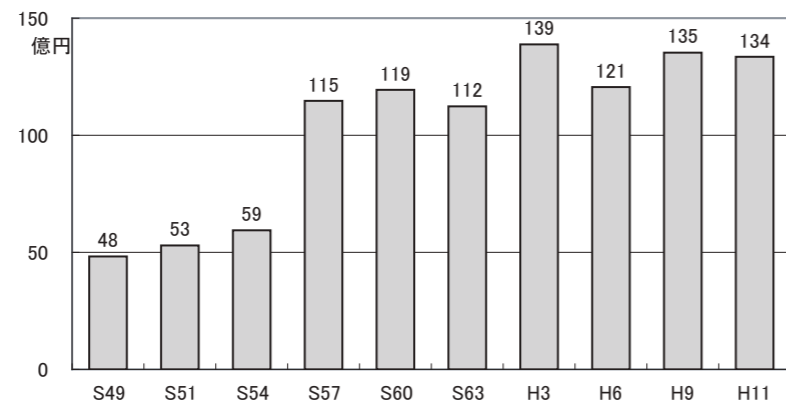


図1-9 商業販売額推移 資料：商業統計調査 (平成12年を100とした消費者物価指数(総務省統計局)にて補正)

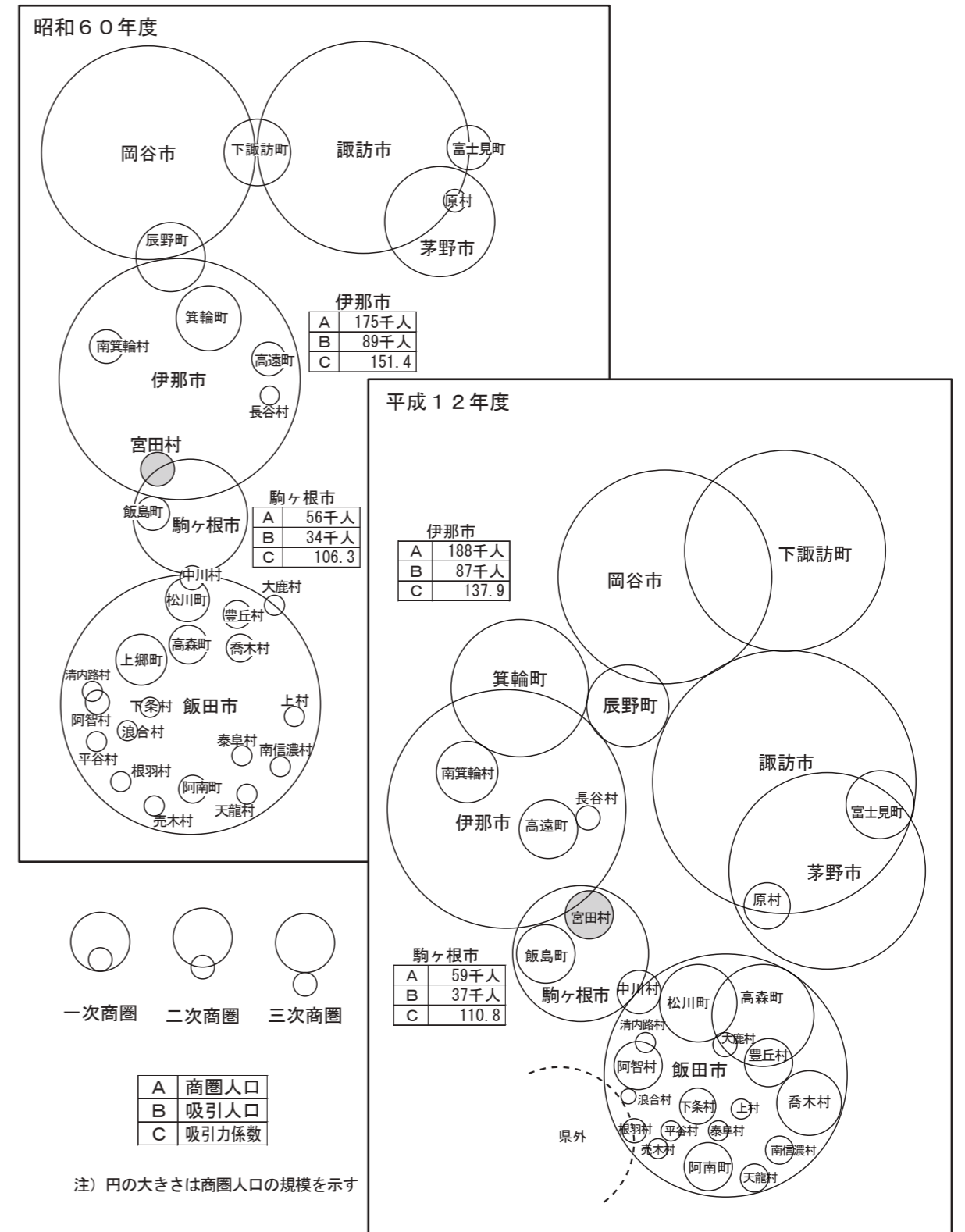


図1-10 商圈構造

資料：商圈調査報告書

6. 土地利用の現況と動向

伊那街道の宮田宿といわれた時代には、仲町でも北寄りが栄え、次いで町二区を中心に発展してきました。昭和50年代には、町一区及び町三区で宅地化が進みました。

国道153号、中央自動車道西宮線の開通により、本村においても都市化が進行しました。JR宮田駅を中心に市街地を形成しつつ、郊外においては工業団地の造成や、つつじが丘団地及び大原団地等の新たな住宅団地が形成されてきました。

西原地区においては、土地区画整理事業が施行され、良好な居住環境が形成されつつあります。また、土地開発公社及び民間による宅地分譲も活発に行われ、近年における宅地化の進行は著しくなっています。（宮田村誌歴史編より）

都市計画区域での土地利用面積を見ると、自然的土地利用は1,123.0ha・72.8%を占めており、そのうち527.42ha・34.2%が農地として利用されています。

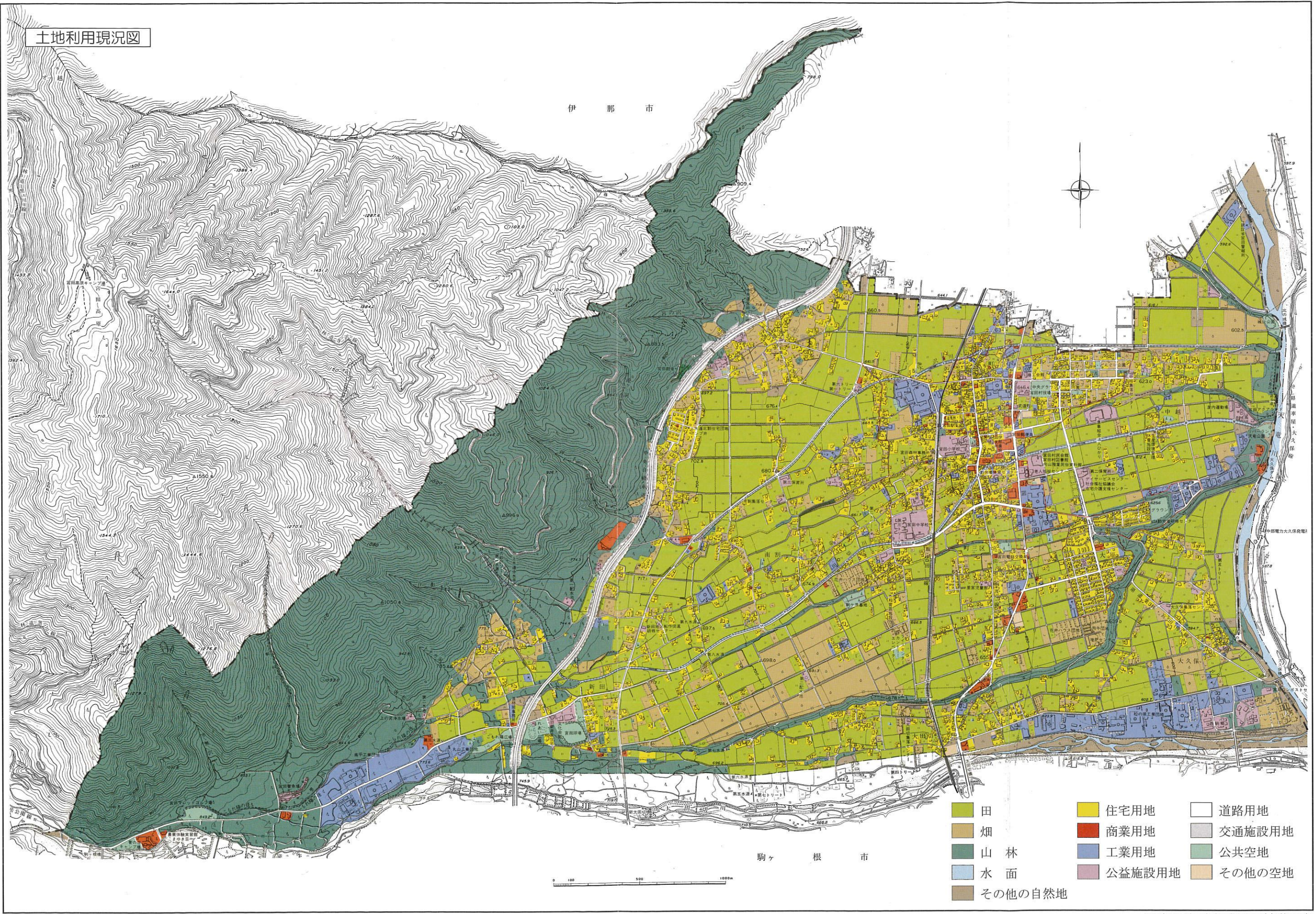
また、用途地域指定区域134haのうち都市的土地利用は109.1ha・81.4%です。宅地のうち住宅用地は51.7haで用途地域指定区域に占める割合は38.6%となっています。

表1-6 土地利用別面積

土地利用区分		用途地域		用途地域指定外区域		都市計画区域		
		ha	%	ha	%	ha	%	
		自然的 土地 利用	農田	11.0	8.2%	387.3	27.5%	398.3
畑	10.1		7.5%	119.0	8.5%	129.1	8.4%	
計	21.1		15.7%	506.3	36.0%	527.4	34.2%	
山林	2.0		1.5%	532.8	37.8%	534.8	34.7%	
水面	1.2		0.9%	21.6	1.5%	22.8	1.5%	
その他自然	0.6		0.4%	37.4	2.7%	38.0	2.5%	
小計	24.9		18.6%	1,098.1	78.0%	1,123.0	72.8%	
都市 土地 利用	住宅用地		51.7	38.6%	116.2	8.3%	167.9	10.9%
	商業用地		4.6	3.4%	6.5	0.5%	11.1	0.7%
	工業用地		14.5	10.8%	51.0	3.6%	65.5	4.2%
	計	70.8	52.8%	173.7	12.3%	244.5	15.9%	
	公共・公益用地	11.7	8.7%	27.3	1.9%	39.0	2.5%	
	道路用地	25.8	19.3%	106.8	7.6%	132.6	8.6%	
	交通施設用地	0.5	0.4%	1.1	0.1%	1.6	0.1%	
その他の空地	0.3	0.2%	1.0	0.1%	1.3	0.1%		
小計	109.1	81.4%	309.9	22.0%	419.0	27.2%		
合計	134.0	100.0%	1,408.0	100.0%	1,542.0	100.0%		

資料：平成13年度都市計画基礎調査

土地利用現況図



7. 建物の現況と動向

(1) 新築状況

平成8年から平成12年までの5ヶ年における本村の新築件数は計395件で、年平均では約80件になります。地区別では町三区、南割、北割、大田切等の用途地域指定外区域に新築件数が多く見られます。(新築分布図参照)

また、新築された建物の用途を見ると、住宅が323件と全体の81.8%を占めています。

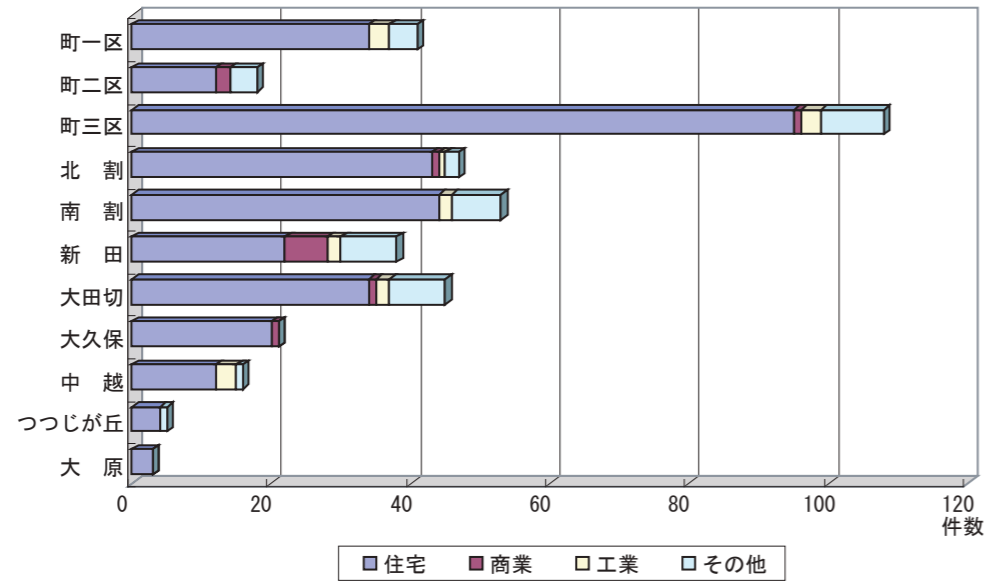


図1-12 地区別新築件数(H8~H12)

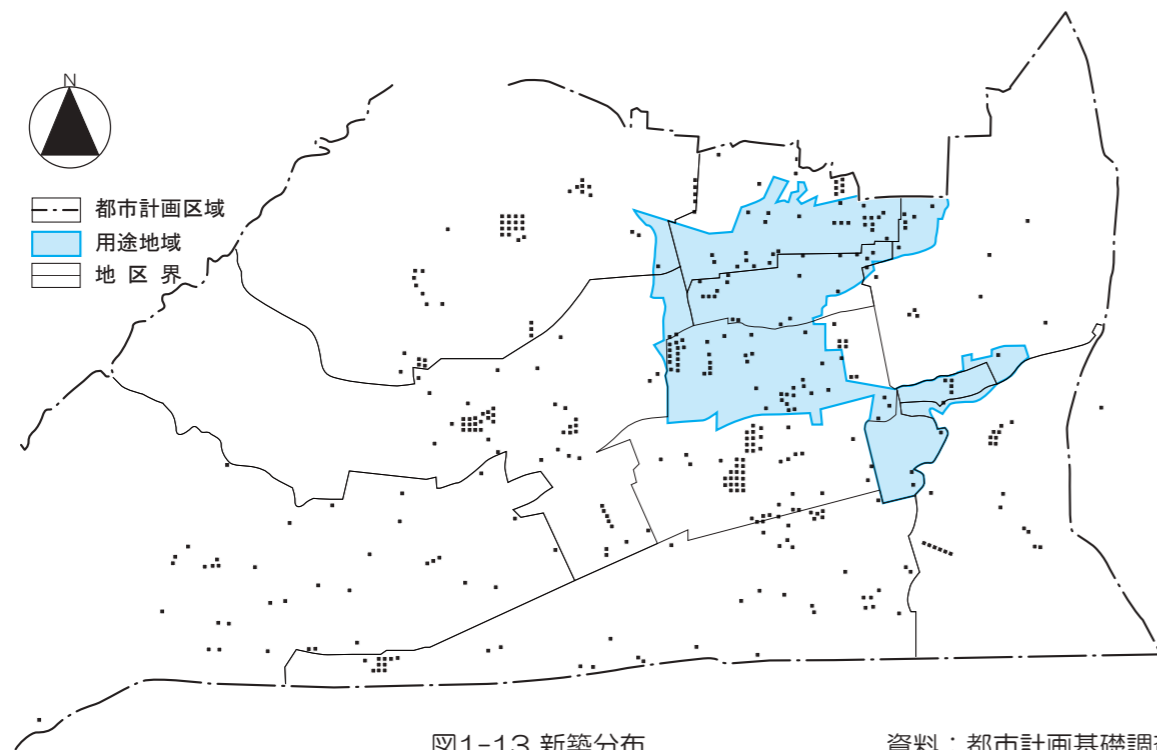


図1-13 新築分布

資料：都市計画基礎調査

(2) 建物年齢

建物年齢別状況(用途地域内)は、30年以上が全体の36.0%、20年以上になると63.9%を占めています。地区別では、北割、南割、町一区、町二区は30年以上の建物が多くを占めています。

また、町三区、つつじが丘は20年から29年の建物が多くを占めています。大原地区は、他地区と比べると、比較的新しい建物が多いことがわかります。

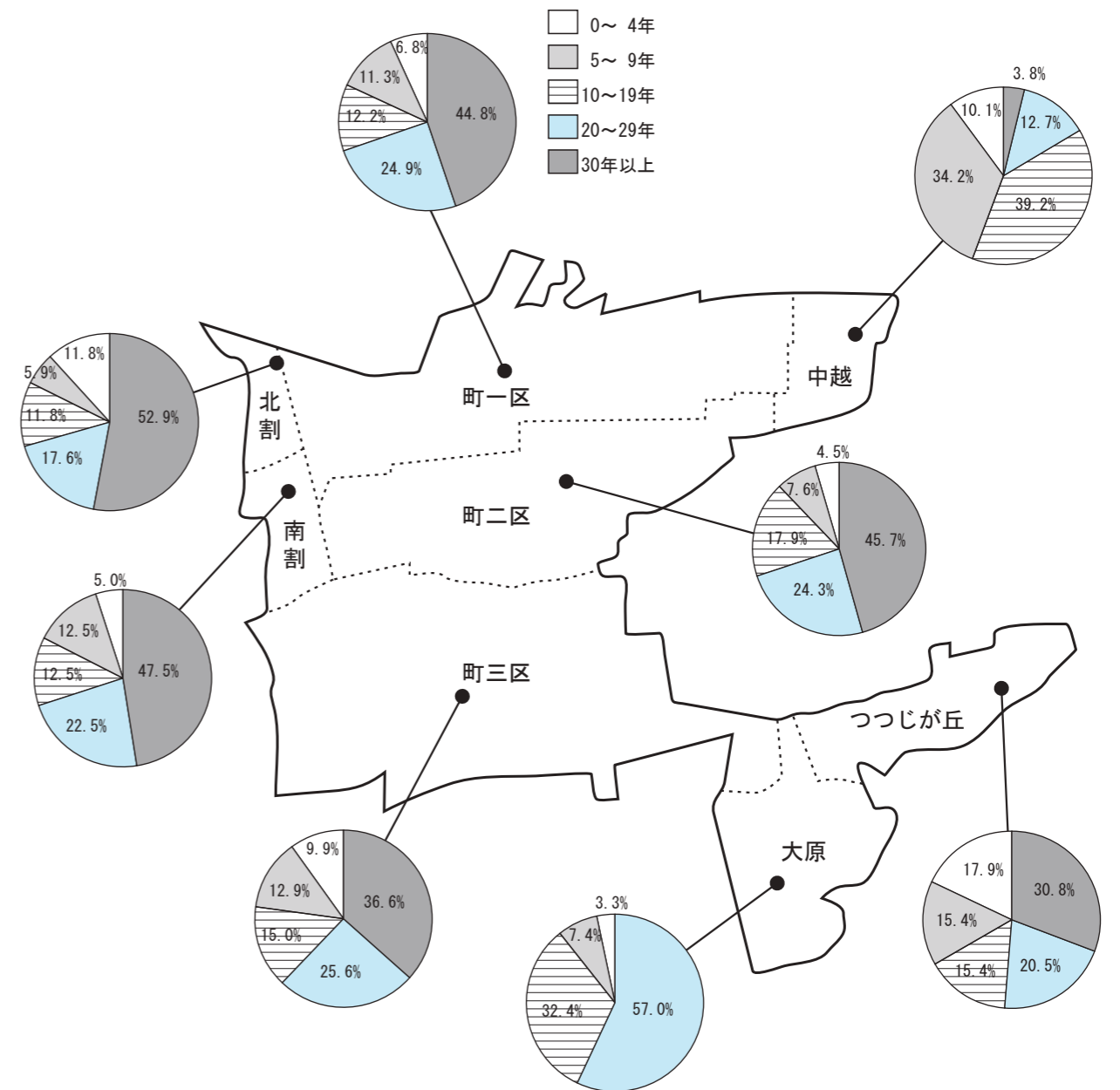


図1-14 地区別建物年齢現況 (平成13年度基礎調査)

8. 交通体系

(1) 交通網

本村の骨格を形成し、広域的に都市間を結ぶ南北交通軸として、中央自動車道西宮線、国道153号、JR飯田線が整備されています。

また、それらの主要軸を補う伊那中部広域農道、県道宮田沢渡線が配置されています。県道栗林宮田停車場線、村道中越北線、村道中央線は東西間を結ぶ重要な役割を担っています。

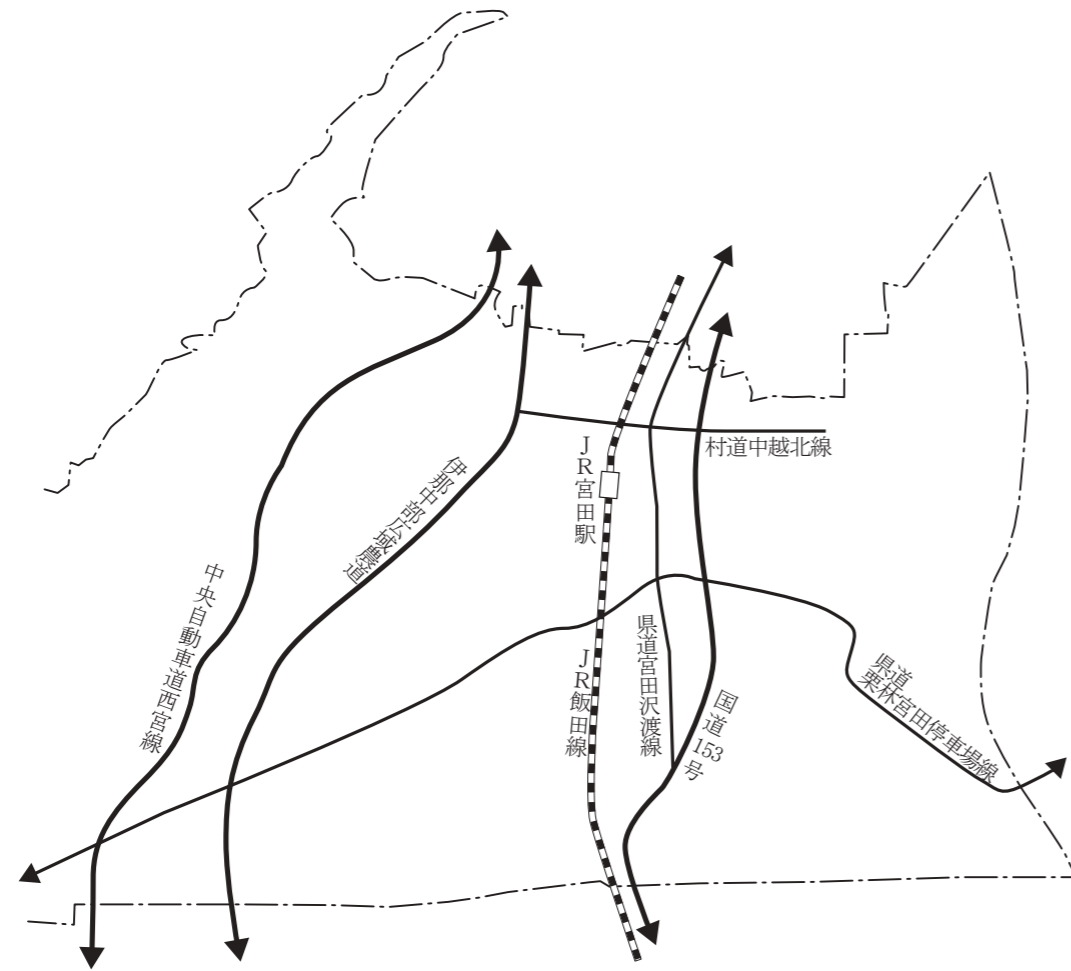


図1-15 主要交通網

(2) 交通量

平成9年度道路交通情勢調査によると、12時間自動車交通量は、国道153号で15,719台となっており、朝夕の通勤時間帯における集中交通が見られます。

また、伊那中部広域農道は11,846台(観測地点は伊那市)の交通量が見られます。

将来の交通量の増加、近隣市町村の国道153号バイパスの整備等が進み、本村の交通量も増加することが推察されます。

表1-7 断面交通量

路線名	観測地点名	台/12h
国道153号	大田切	15,719
西部1号線(広域農道)	伊那市山本信号南	11,846
県道宮田沢渡線	伊那市表木	2,003
県道栗林宮田停車場線	大久保	2,542
村道中越北線	北原医院前	2,282
村道中央線	中学校南	2,955

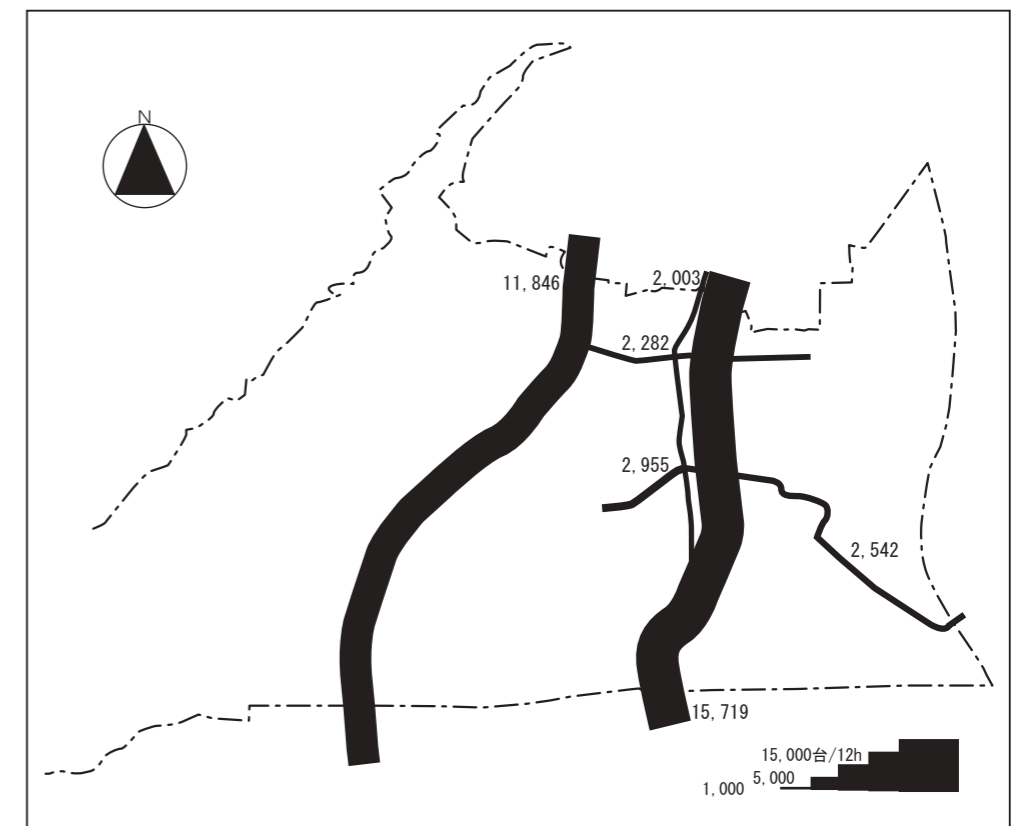


図1-16 断面交通量

資料：道路交通センサス

(3) 公共交通機関

本村は、JR宮田駅が市街地中心部に配置されています。一日平均の乗降人員は1,000人前後であり、主に通勤・通学等に利用されています。

首都圏の東京、大都市の横浜、名古屋、大阪へは中央自動車道を利用する高速バスによって機能は充実しています。

近隣市町村を結ぶ路線バスは、平成13年秋に唯一の国道路線の廃止によって全てが無くなり、村民の身近な交通手段はJR飯田線のみとなっています。

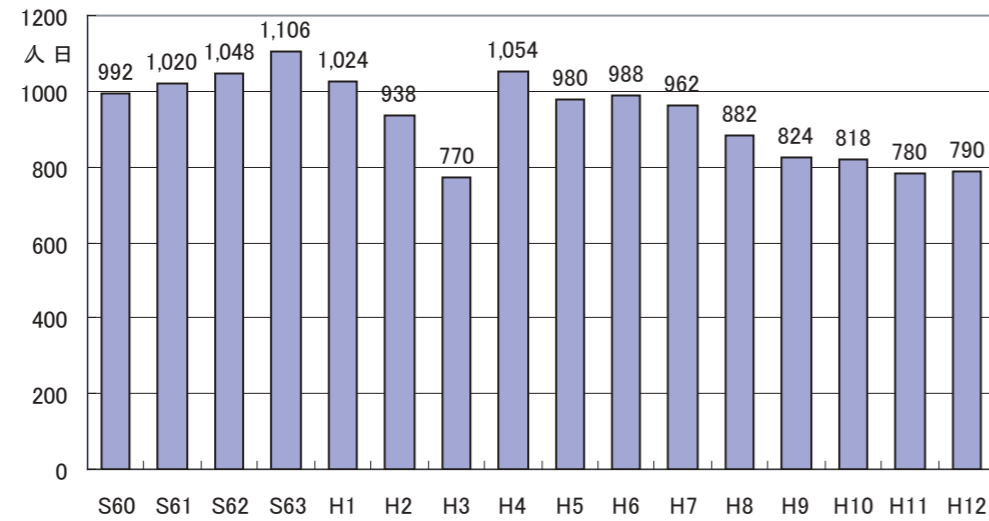


図1-17 JR飯田線乗降者数推移(1日平均人員)

資料: JR東海

9. 公共施設の状況

本村の主な公共施設は下記のとおりです。

公共施設用地としてあらかじめ指定し、計画的な整備を進めてきましたので、公共施設は効率的に配置されています。

表1-8 公共施設一覧

施設名称	施設分類	地区名	施設名称	施設分類	地区名
宮田小学校	学 校	町 二	宮田村勤労者体育センター	スポーツ等施設	町 三
宮田中学校	学 校	町 三	宮田村武道館	スポーツ等施設	町 二
北割集落センター	農林業施設	北 割	宮田球場	スポーツ等施設	新 田
南割集落センター	農林業施設	南 割	宮田村屋内運動場	スポーツ等施設	中 越
大田切集落センター	農林業施設	大田切	中央グラウンド	スポーツ等施設	町 一
大久保集落センター	農林業施設	大久保	つつじが丘グラウンド	スポーツ等施設	つつじが丘
中越集落センター	農林業施設	中 越	宮田マレットゴルフ場	スポーツ等施設	新 田
宮田村農業体験実習館こまゆき荘	農林業施設	新 田	宮田村役場	村の施設	町 一
新田地区転作促進研修センター	農林業施設	新 田	村営住宅	公営住宅等施設	つつじが丘
宮田村運動広場・農業者トレーニングセンター	農林業施設	新 田	教員住宅	教員住宅	町一、町二、町三、中越
第一保育所	福祉施設	町 三	村営駐車場		町 二
第二保育所	福祉施設	中 越	宮田アクアランド	下水道廃水処理施設	中 越
第三保育所	福祉施設	南 割	宮田村コンポストセンター	下水道汚泥処理施設	大久保
宮田村子供館	福祉施設	町 三	宮田村商工会館	商工会の施設	町 一
宮田村老人福祉センター	福祉施設	町 三	宮田郵便局	国の施設	町 二
デイサービスセンター・在宅介護支援センター	福祉施設	中 越	南信森林管理署宮田森林事務所	国の施設	町 二
宮田村仲なかふれあいセンター	福祉施設	町 二	宮田村警察官駐在所	県の施設	町 二
宮田村民会館・図書館	文化・コミュニティ	町 三	長野県西駒郷	県の施設	大久保
町一区公民館	文化・コミュニティ	町 一	宮田村上水道水源・浄水場	上水道の施設	各 所
町二区公民館	文化・コミュニティ	町 二	分水井・配水池		
町三区公民館	文化・コミュニティ	町 三	宮田村トリート、排水処理組合	下水道の施設	各 所
勤労者研修センター	文化・コミュニティ	つつじが丘			
大原区公民館	文化・コミュニティ	大 原			
多目的研修集会施設文化会館	文化・コミュニティ	新 田			
本陣民族資料館	文化・コミュニティ	新 田			
向山雅重民族資料館	文化・コミュニティ	町 二			

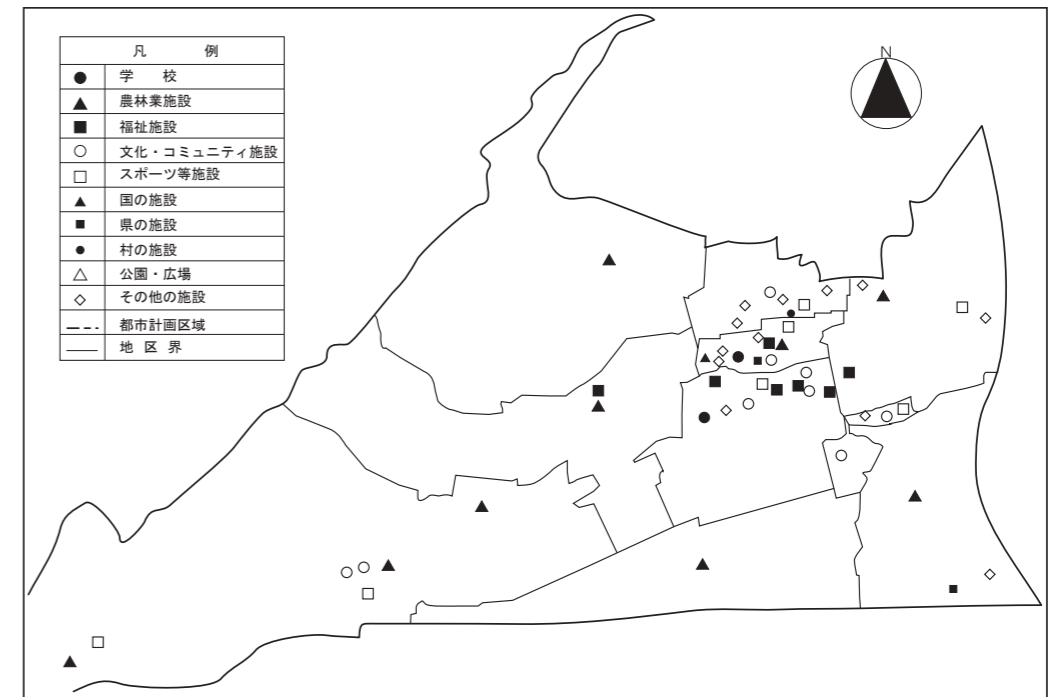


図1-18 公共施設位置

10. 都市基盤整備の状況

(1) 都市計画道路

都市計画道路は9路線 9,375mが都市計画決定されています。

西原地区土地区画整理事業の施行に伴う道路整備等により整備率は40.7%となっていますが、国道全線、県道宮田栗林線の北町部、中央線の国道より東側の区間、村道駅仲町線の国道よりJR宮田駅までの区間、中越北線の国道より西側の区間及び田中線全線が未整備となっています。

表1-8 都市計画道路整備状況

路線名	幅員	計画決定延長	改良済延長	整備率	備考
3.5.1 名古屋塩尻線	12~16m	2,730 m	0 m	0.0%	幹線道路
3.5.19 宮田栗林線	12m	680 m	383 m	56.3%	〃
3.5.14 駅仲町線	14~16m	708 m	276 m	39.0%	補助幹線道路
3.5.15 東線	12m	1,550 m	1,550 m	100.0%	〃
3.4.16 中央線	16m	1,180 m	805 m	68.2%	〃
3.5.17 田中線	12m	1,100 m	0 m	0.0%	〃
3.5.18 中越北線	12m	1,316 m	693 m	52.7%	〃
8.6.1 西原一号線	8m	48 m	48 m	100.0%	歩行者専用道路
8.6.2 西原二号線	8m	63 m	63 m	100.0%	〃
合計		9,375 m	3,818 m	40.7%	

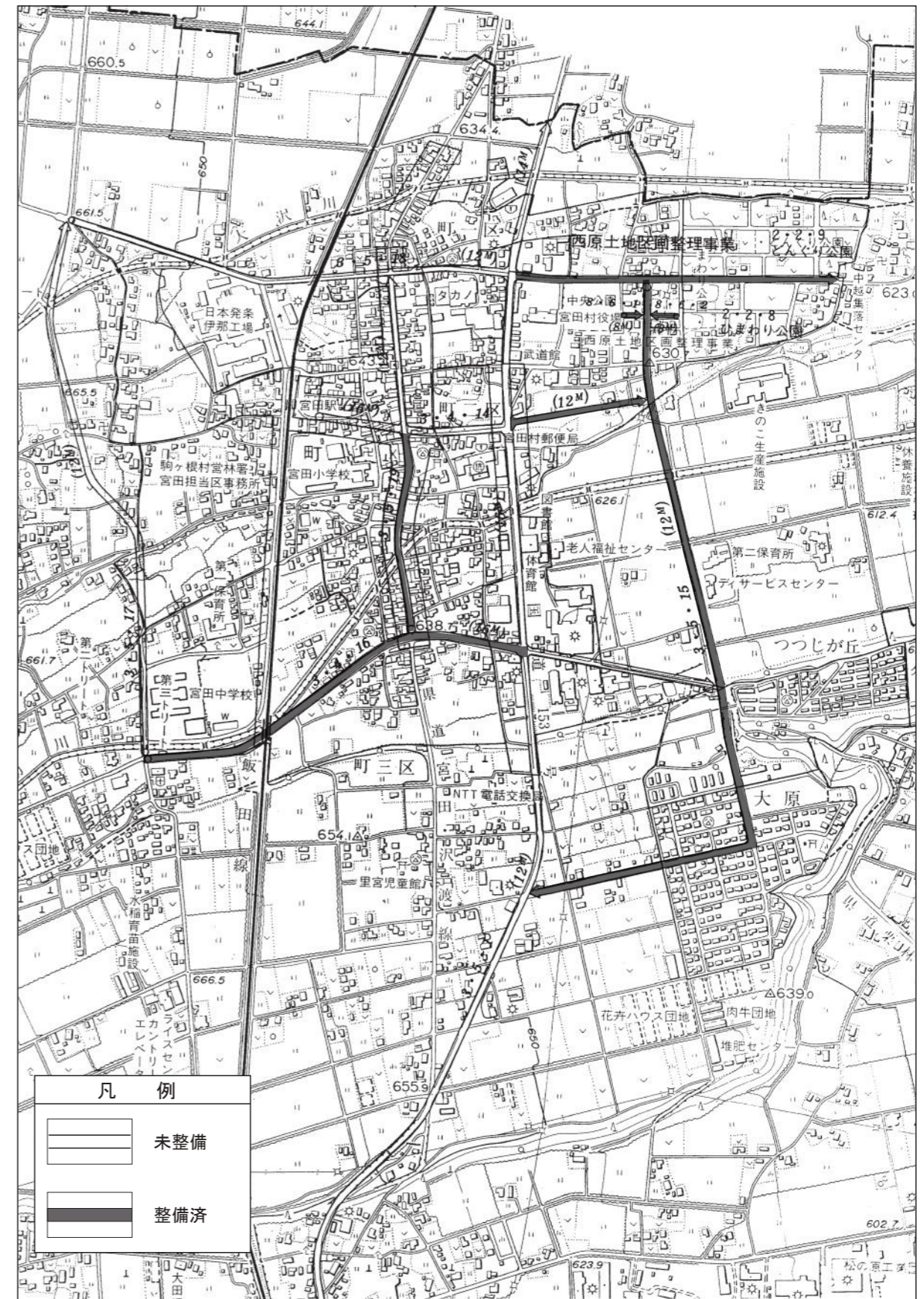


図1-19 都市計画道路整備状況

(2) 公園・緑地

本村の都市計画公園は2箇所が都市計画決定され、平成7年度末までに全て開設されています。

また、都市計画公園以外にも、比較的規模の大きいリバーランド天竜公園やふれあい広場等、村民のいこいの場として整備されています。

表1-10 公園一覧

公園名称	面積 (㎡)
リバーランド天竜公園	4,754
宮田村総合公園ふれあい広場	22,400
宮田村総合公園こもれ陽広場	9,247
中央公園	10,490
宮田高原	1,204,201
こもれ陽の径	1,246
ほのぼのパーク	632
せせらぎ公園	355
中越遺跡史跡公園	3,360
けやきの森公園	4,814
ひまわり公園	1,947
どんぐり公園	1,268
こもれ陽の森公園	32,215
合計	1,296,929

(3) 上水道

本村の上水道は、平成9年4月に宮田村水道水源保護条例を制定して、水の安全性と水源の確保に努めており、普及率はほぼ100%に達しています。

人口の増加、生活水準の向上、下水道の普及等による生活用水需要量は年々増加してきましたが、近年は生活形態や様式の変化により、一人当たりの平均配水量は減少傾向にあります。

表1-11 給水状況の推移

	行政区域人口 (人)	給水人口 (人)	1日平均給水量		普及率 (%)
			(m³)	(l/人)	
平成8年	8,523	8,512	3,438	404	99.9%
平成9年	8,629	8,620	3,355	389	99.9%
平成10年	8,755	8,748	3,169	362	99.9%
平成11年	8,881	8,876	3,078	347	99.9%

(4) 下水道

公共下水道は、用途地域を中心に中越及び駒が原の軌道東を加えた185haの整備計画を策定し、平成13年度末現在では184haが完了する予定です。

終末処理場（宮田アクアランド）は、平成12年度末に第3系列が完成し計画処理人口6,000人となっています。平成12年度末の水洗化率は83.4%となっています。

農業集落排水事業は、農業振興地域を主体に西部、南部、東部の3地区機能強化事業が完了し、計画処理人口4,280人となっています。

平成12年度末の水洗化率は94.5%となっています。

また、汚泥処理については、宮田コンポストセンターにおいて、脱水・乾燥・発酵処理を行いコンポスト化して村内の家庭菜園に有効利用されています。

計画区域人口 (人)	処理区域人口(人)		水洗化人口 (人)	水洗化率 (%)
	公共下水道	農業集落排水		
8,620	4,282	3,256	7,538	87.4%

1.1. 上位関連計画のまとめ

(1) 上位計画の概要

本計画の上位計画として長野県で「長野県長期構想」が策定されています。
また、宮田村では「宮田村第4次総合計画」が策定されています。なお、「国土利用計画宮田村計画」を現在策定中です。

① 2010年長野県長期構想 目標年：2010年（平成22年）平成7年3月策定

目的：昭和57年度策定「21世紀に向けての長期構想」に代わる県長期構想

＜上伊那地域＞「ふたつのアルプスにはぐくまれた産業と文化の快適都市圏域」

- 豊かな自然のなかで、多彩な産業が発展し、生活環境が整った文化の香り高い都市圏域の形成をめざします。
- 交通ネットワークの整備などを進め、隣接する諏訪、飯伊、木曾、松本地域、山梨県それには東京圏、名古屋圏などとの交流と連携、国際交流の拡大により地域全体の発展を図ります。
- 企業間や大学との交流の促進を図り、産業団地の整備を進め、高度先端技術産業の拠点地域を目指します。
- 自然資源と地域に根づいた文化を結びつけた魅力ある観光地を形成し、休養と体験学習の場となる滞在型リゾート地を目指します。
- 整備された農業生産基盤を生かして経営体の育成などを推進し、活力ある農業の展開を目指します。

② 長野県中期総合計画 目標年：平成12年度 平成8年4月策定

目的：「2010年長野県長期構想」を具体化する第一次中期計画

＜上伊那地域＞「豊かな自然 先端産業と暮らしが調和する上伊那」

1. 国際化に対応した産業構造の構築と技術の高度化
 - 伊那テクノバレー開発計画に基づき、異業種交流や技術開発、人材の育成を進め、国際化に対応できる産業構造への転換と技術の高度化を推進します。
 - 既存の産業団地へのアクセス改善などの基盤整備を進めることで、新たな企業誘致を図り、地域産業の活性化を促進します。
 - 上伊那地域と太平洋側との交流を生む三遠南信自動車道の建設整備に併せ、新たな産業の導入や流通網の確立を目指します。
2. 豊かさを感じられる都市の整備
 - 国道153号バイパスの整備を推進するとともに、農道、林道等を含めた地域交通網の整備を進めます。
 - 公共下水道、農業集落排水処理施設、県営住宅の整備、豊かな自然を生かす景観の形成など、快適で暮らしやすい環境の整備を進めます。

③ 宮田村第4次総合計画 目標年：平成22年度 平成13年3月策定

基本目標：「人と自然にやさしい創造のみやだ」

本計画は、よりよい“むらづくり”を総合的かつ計画的に推進するための村政の基本方針としての役割と性格を持つものであり、村のすべての計画の根幹となすものです。

この計画のうち、本計画と関わりの深い内容として「地域基盤整備」、「居住環境の整備」の項には以下のような目標が掲げられ、具体的な施策が計画されています。

○便利で美しいむらづくりを進め、住民の生活をより充実したものにすることで生活の質を向上させ、地域の豊かさを現実のものとしします。

道路改良やまちなみの整備、上下水道の整備や環境衛生などの生活の基盤となる条件整備により、都市的利便性と生活空間のゆとりと安らぎが持て、人が活発に行き交う便利で機能的なむらづくりを進めます。

このような基盤整備の整った地域は、企業にとっても魅力のある地域であり、産業の発展の基礎にもなります。

○宮田村はこれまで様々な施策を実施し大きな発展を遂げて、村としての生活基盤の整備充実が図られてきました。その一方で、基盤整備づくりのため、変わらざるを得なかったところもあります。その大きな例が農村環境であり、田園風景といえます。

アンケート調査でも、宮田村の農地が減り、のどかな田園風景が変わっていくことを危ぶむ声が多数見られ、改めて村の原風景としての田園景観を、多くの村民が大切に感じていることが分かりました。

村民が、日々の暮らしの中で、住宅周辺の景観に四季を感じ、田園環境の中で都市的利便性と生活空間のゆとりと安らぎを持てるような居住環境の整備が必要と考えます。

そのためには、生活者の視点から見た居住環境の整備を進め、村民が誇りを持って住める居住環境づくりを進めます。

第2節 住民意向の把握

1. アンケート調査の整理

本村は、「宮田村第4次総合計画」策定にあたり、村民を対象にアンケート調査を実施し、策定の基礎資料としました。

今回、都市計画に関連する設問を整理し直すことにより、都市計画マスタープランの基礎資料として活用しました。

(1) 調査概要

- ・調査方法 18歳以上の村民を対象に無作為抽出
- ・サンプル数 2,000
- ・調査日 平成11年10月
- ・回収状況 回収数 834 (41.7%)

分類	アンケート回答の上位意見	課題
土地利用	<住宅地> ・住宅地内での工業施設の混在を解消する (29.1%) ・区画整理事業の推進による宅地造成を図る (22.7%)	・住工混在の解消 ・良好な宅地の提供
	<商業地> ・現在の商業施設の活性化を図る (31.2%) ・商店街駐車場の整備を図る (25.1%)	・既存商店街の活性化対策
	<工業地> ・工業用地は現状のままでよい (26.5%) ・市街地にある工場を工業地に移転する (26.1%) ・高度技術の研究施設等の誘致を積極的に行う (22.1%)	・企業の誘致 ・住工混在の解消
	<農業地> ・農用地は積極的に保全する (44.4%) ・市街地にある農用地の減少はやむを得ない (29.0%)	・市街地外にある農地の積極的な保全 ・土地利用の明確化
都市基盤整備	<交通体系> ・国道153BPについて一現国道の拡幅 (24.5%) ・今後力を入れるべき事業として一通学路・通園路の歩道の設置 (40%以上)	・BP新規ルートは不要の意向も有 ・歩道の整備
	<宮田駅前周辺> JR宮田駅周辺の再整備に関して ・公共施設の設置 (32.4%) ・定住人口確保の為に住宅と店舗の併設を図る (18.8%) ・商店街駐車場の整備	・宮田駅周辺の再整備 ・商店街駐車場の確保 ・駅周辺の定住人口の確保
	<公園緑地> ・自然緑地・公園などの造成は「必要無い」 (57.0%)	・新設の要望強くない ・既存公園の整備、充実
その他	<上下水道> ・各種基盤整備のうち、上下水道整備については満足度が非常に高い。(80%以上)	
	<住民参加> ・村からの情報も村民が意見を言う機会も不足している (40.9%) <主要指標> ・人口一今以上に人口が増えた方がよい (45.3%) ・現状を維持しながら今以上増やさない方がよい (37.2%)	・住民参加の在り方

2. まちなみウォッチング

(1) 目的

地域住民に気軽な気持ちでまちづくりに参加してもらい、全体構想及び地域別構想に反映させることを目的として、まちなみウォッチングを実施しました。

村内を4つのコースに分けて、実際に歩いて見て気づいたこと、発見したことを材料に話し合いました。作成したマップ及び意見のまとめは、地域別構想編に反映しています。

(2) 実施状況

実施日時：平成12年12月10日（日）13:00～17:00

場所：宮田村役場 会議室

参加人数：一般参加者 24人

(3) 作成マップの広報や展示

役場、村民会館、仲間がふれあいセンターのロビーに展示し、村民の皆さんへの周知と意見や感想をいただきました。

また、広報みやだ平成13年1月号や地方紙で内容をお知らせしました。

3. まちづくり研究会

計画策定により住民意見を反映した計画とするため、まちづくり研究会の委員を公募し、16人により発足しました。

研究会は、まちなみウォッチングのまとめや計画素案の検討と作成等の活動を行いました。

(1) まちづくり研究会の任期

平成12年12月1日～平成14年3月31日

(2) 開催回数 計8回

(3) 開催・活動の状況

回数	開催日	活動内容
1	平成12年12月15日	・まちづくり研究会について ・会長・副会長の選出 ・今後の進め方について
2	平成13年 2月21日	・まちなみウォッチングのまとめ ・今後のスケジュール検討
3	4月23日	・まちなみウォッチングのまとめ ・研究会による「まちなみウォッチング」実施について ・マスタープラン全体構想の検討
4	5月13日	・駅周辺と古い街並み・建物の 「まちなみウォッチング」実施とまとめ
5	7月26日	・全体構想の検討
6	9月27日	・全体構想、地域別構想の検討
7	平成14年 1月28日	・マスタープラン（案）の検討
8	3月28日	・マスタープラン（案）について

4. 小学生対象のアンケート調査

宮田小学校の6年生の皆さんから、宮田村の良いところ、良くないところ、また、将来の夢等、子供の目から見た意見をたくさんいただきました。

(1) 調査日 平成13年8月～9月

(2) 回答者 宮田小学校6年生 78人

5. 地区別懇談会

地域住民からの意見を反映させるため、地区別懇談会を開催しました。11地区計300人余の参加により、地域の皆さんから多くの意見をいただきました。

(1) 開催日 平成13年11月13日～30日の間

(2) 開催場所 各地区の公民館、集落センター等

(3) 参加総数 305人

第3節 都市計画の課題

現況調査結果を踏まえ、宮田村都市計画マスタープラン策定における重点課題は、以下のとおりです。

1. 土地利用

(1) 市街地拡大に伴う農地・山林との土地利用調整

都市化の進行により、用途地域周辺や幹線道路沿いの農振地域等で市街化が進んでいます。用途地域拡大指定も含め、周辺部での土地利用調整が課となります。

また、これらの課題は、自然環境、農林業振興、バイパス・道路網等の整備、住宅・宅地供給、市街地整備等のあり方と密接に関わりがあり、総合的な取り組みが必要です。

(2) 既存市街地の空洞化

全村で見えた場合、人口及び産業の発展は顕著ですが、既存市街地における空洞化は、商業振興のみならず住民生活や、まちのイメージに大きく影響を及ぼす課題となっています。

2. 都市施設整備

(1) 国道153号バイパスを含めた道路網体系の検討

南北の広域主要幹線道路となる国道153号バイパスの整備が近隣市村町で進行している中、本村においても増加する将来交通に対応するため、土地利用との整合を図りつつルートを決定する必要があります。

また、都市計画道路網のみならず、広域農道、生活道路等も含め、市街地の土地利用計画等と整合した将来道路体系整備について調整する必要があります。

(2) 宮田駅周辺の活性化

空洞化している宮田駅周辺の活性化を推進し、宮田村の「顔」としての機能向上させることが必要です。そのためには、都市計画道路の整備等、関連事業と調整を図り、産業及び地域特性等様々な観点から魅力ある空間をつくり出す必要があります。

3. 住民参加

住民参加は、行政分野に幅広く求められている課題であり、様々な分野での計画や施策の決定、施設整備等に対して、多くの住民が何らかの形で参加したいとの意向が示されています。

計画においても、ワークショップやまちづくり研究会等、住民参加による提案を施策に反映させる方法を取り入れました。こうした中で、行政の活動に対する住民参加のあり方を位置づける必要があります。